

1. 概要

- ・経費...【補助金】スーパーグローバル大学創成支援
- ・研究課題... GLIP 英語科目「英語 A1」 “Summer Intensive English”
- ・開催形態...大学構内での対面授業（研究講義棟 326 教室）
- ・日程... 2023 年 9 月 11 日（月）～ 15 日（金）2 限 - 4 限
- ・参加者... 学生 22 名/担当教員 1 名（Professor Joe Ragsdale）/ティーチング・アシスタント 5 名

2. 実施内容

昨年度同様、2023 年度も Summer Intensive English (Summer Immersion Camp) は対面形式での開講となった。担当教員による短いレクチャーとガイダンスをふまえて、学生が様々なグループワークやペアワークをおこない、集中的かつ大量に英語のスピーキングを主体とした活動をこなした。また、最終日のグループ・プレゼンテーションに向けて、同じ国・地域に興味があるメンバーでグループを構成し、その固定グループでプレゼンテーションの準備をすすめた。ティーチング・アシスタントが学生のグループに加わり、適宜助言を与えたり、グループでのディスカッションが円滑に進むよう助けたりした。また、常にティーチング・アシスタントがグループに加わることにより、履修学生全員が授業中、英語を用いたアウトプットをおこなうよう徹底した。

1 日目: 9 月 11 日（月）

初日は、学生は文化をめぐる諸概念の定義を確認し、「アイスバーグ理論」についてディスカッションをおこなった。加えて、アメリカ文化における価値観や慣習について担当教員がレクチャーした。授業内活動としては、ペアワークでのスピーキング・リスニング演習、ノートテイキングとディスカッションのスキルの修得が主なものとなった。アメリカ文化における価値観や慣習に関するレクチャーを通して、多くの発見があり、アメリカ文化について改めて考え直す機会となったようだった。また、ペアやグループでのディスカッションで意見を交換したり、ミニクイズやペアでクイズの答えを確認したりする中で、担当教員による講義から得た知識をより深められているようだった。

2 日目: 9 月 12 日（火）

2 日目は、まず担当教員がアメリカナイゼーションと文化伝播についてのレクチャーをおこなった。学生は、世界におけるアメリカ文化の諸相についてのレクチャーを聞き、ノートを取り、ディスカッションをおこなった。また、最終日のプレゼンテーションに向けての活動もおこなった。プレゼンテーションのうち、自分の発表担当部分を他のグループのメンバーの前でリハーサルするというものであった。課題として、各々が調べてきてわかったことを発表し、その後、聞き手から質問やフィードバックをもらった。学生はみな積極的に質問や意見交換をおこなっており、最終日のプレゼンテーションに役立つ有益なフィードバックをもらっているようだった。

3 日目: 9 月 13 日（水）

3 日目は、学生が最終日におこなうことになるグループ・プレゼンテーションに向けたリサーチ内容をお互いに共有し、ディスカッションやブレインストーミングをおこなった。プレゼンテーションでは、それぞれが選択した特定の国・地域におけるアメリカ文化・アメリカナイゼーションの問題を論じるという課題に取り組んだ。学生同士でリサーチ内容を検討しあった後で、ティーチング・アシスタントがそれぞれのグループに加わり、プレゼンテーションの準備をすすめた。学生はみな、自分の意見を共有し、有意義な討論の時間となっていた。また、担当教員による文化の種類について、異文化交流についてのレクチャーも聞いた。学生は、その後、学生同士でレクチャーの理解度を確認し、文化についての知識をさらに深めていた。

4日目:9月14日(木)

4日目は、グループ・プレゼンテーションで各自が担当する箇所について、別のグループの学生に向け、プレゼンテーションの練習をおこなった。学生は、別のグループの学生からフィードバックを受け取り、質疑応答の練習をおこなった。また、学生自身の「アメリカナイゼーション」の経験について掘り下げたり、プレゼンテーションの内容についてさらにグループ内でディスカッションをおこなったりする機会が設けられた。

5日目:9月15日(金)

最終日は、それぞれのグループがパワーポイントを使用し、特定の国・地域(メキシコ、中国、フランス、スペイン、韓国、ヨーロッパ、の6グループ)におけるアメリカ文化、特にアメリカ文化・アメリカナイゼーションというテーマで、プレゼンテーションをおこなった。その後、すべてのプレゼンテーションについて、学生同士で意見交換をおこない、また教員とティーチング・アシスタントがフィードバックを与えた。また、プレゼンテーションから得た知見について、それぞれの学生がエッセイの形でまとめ、授業終了後に提出した。



全日程をとおして、学生は英語4技能を伸ばすために様々なクラスルーム・アクティビティに参加し、とりわけスピーキング、リスニング、プレゼンテーションのスキルを集中的かつ実践的に学んだ。事後アンケートでは、クラス内容にとっても満足しているという回答が多かった。話す機会と聞く機会が特に多くあり、またこれらの技能が集中的に伸ばせたと回答している学生が多く、授業の目的を果たすような内容だったことがわかる。英語を話す能力を伸ばしたいという同じモチベーションの学生が集まり、教室の雰囲気よかったという意見もあり、満足度の高さがうかがえた。

授業内のやりとりはすべて英語でおこなわれ、ティーチング・アシスタントがつねに学生のグループに加わることで、すべての学生が適切なアドバイスを受けることができた。アドバイスは語学上のものにとどまらず、学生に模範を示すことで、英語で積極的に自分を表現するように学生を励まし、話しやすい環境作りや、意見を引き出す工夫を多くおこなっていた。事後アンケートからもティーチング・アシスタントの評価は高く、授業の満足度の高さにつながっているようであった。具体的には、「誤っている箇所を指摘してくれた」、「英語でどのように表現をすればよいかわからないとき助言をしてくれた」、などの語学に関するサポートへの感想をはじめ、「グループディスカッションの際にスムーズに会話が続けるようにトピックを提供するなど、アドバイスや支援をしてくれた」、「親切でオープンな態度で話を聞いてくれたので、英語を話す際の恐怖心を克服できた。」、などのグループディスカッションが円滑に進むためのサポート面への感想が多くみられた。今年度も履修学生にとって、大変満足度が高い授業となったようである。

3. 写真

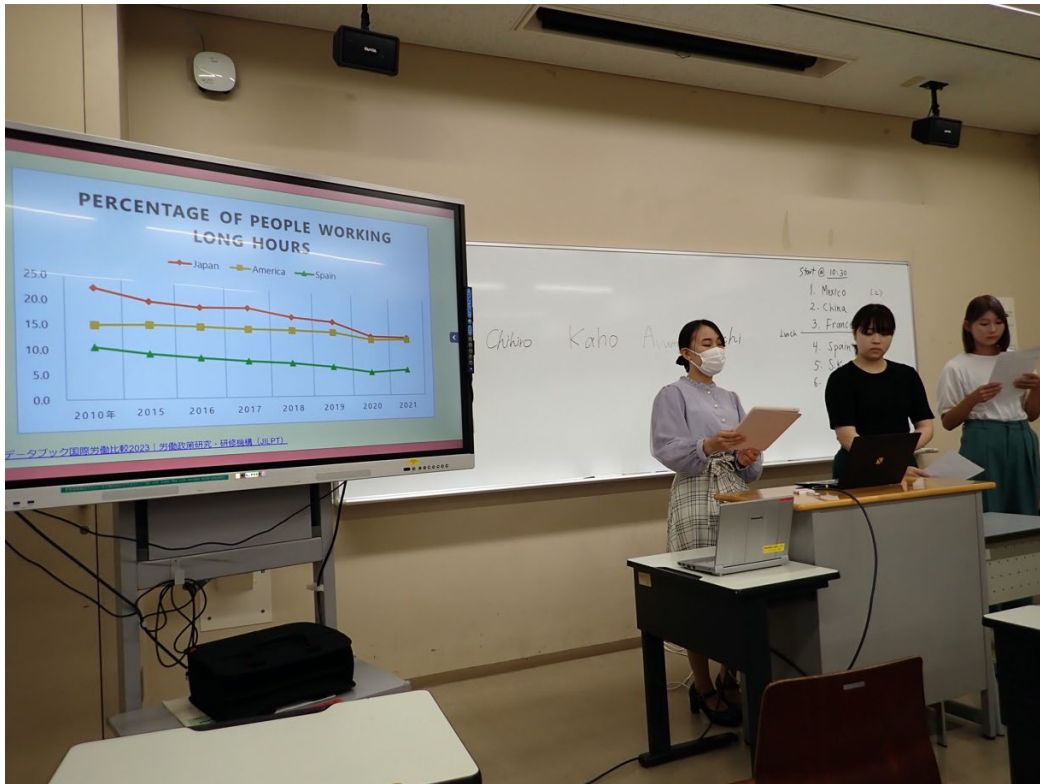
担当教員による講義の様子



課題に取り組む様子







世界言語社会教育センター 特任講師
GLIP 英語科目コーディネーター 川本 渚凡